

世界中 恩師、安積75期生、同窓生数名 発行部数 三百二十部、誤字脱字、敬称略、御容赦、住所変更乞う連絡

七五期

葉書きの同級会

伊藤正志⑥県労連議長20年にわたる、機関紙への掲載を一冊の本にまとめた。時代を風刺していて面白い。同期生から葉書がたまる一方だから、今回初めてスペースを文才あふれる正志に提供する。

柿 若 葉

安高百周年の体育祭▼昔は騎馬戦がゲームの華だったが、今は「危険」とかで、紅白玉入れになっているそ

うだ。さて、一年生の玉入れ。合図でワーとカゴめがけて放り入れては見たものの「ヒトーツ、フターツ」と数える段では、馬鹿ばかりなのか、全員がしゃがんだまま、頬づえをついてダシマリだったと▼二年生はと言えば、カゴでは無く、相手チームめがけて、ぶつけ始めたんだと。マイクで教師が「カゴだツー・カゴツ！」と叫んでも玉合戦は止まらなかったんだと。三年生はどうしたと思う？▼合図と同時に全生徒、一斉に先生の立並ぶ方向に向き直り、先生めがけて玉をぶつ

けたんだと。こういうのは暴力と言うのでなく、洒落といえます。♪ワーカカーサモユル安高は地元でも評判です。(一九八四年十月記)▼一九九三年八月三十日「知命」の歳を迎えた日に、ふと思いました。「ああ、ああ頼みもしないのに五十か、とところで俺の生きた半世紀は一体何だったんだろう」そこに、出入りの記者の勧めもあって、労働組合の機関紙に書き続けた上記の様なコラムを選んて『独眼流』として出版するに至りました。「恥知らずで、あんたは偉い！」と自

分を褒めてやりたい気分▼そして五月六日、出版と銀婚式を併せてお祝いしていただいた。同期生で音楽仲間間の神山靖範君(FCTテレビ事業局次長)が、発起人代表。私どもの媒酌人佐藤浩(児童詩誌・青い窓主宰)ご夫妻、古くからの友人で歌手の上條恒彦、安積の同期生らも駆けつけてくださった。友情に感謝▼ほつとして 籐椅子に居る柿若葉 《富安風生》
▼葉書の提供。神山靖範① FCT妻照子より百枚。高橋邦二恩師より二百枚。宗形敏雄①宗形商事二百枚。

無責任編集発行 郡山市熱海町熱海4の39 村田英男 FAX〇二四一九八四一二三二 求む、近況報告